

降水量について. アフリカ研究, No. 34, 23~29 3) FAO/UNEP (1980): Cameroun-Cartographie du couvert végétal et étude de ses modifications; avec carte écologique du couvert végétal du Cameroun méridional au 1:1 M. (1979). GEMS/FAO, Rome, 83 p. 4) 春木雅寛 (1982): カメルーンの森林と林業. 地理, 27 (5), 100~106 5) 堀 信行 (1982): カメルーン南部森林地帯の自然と人々. 地理, 27 (4), 77~88 6) 門村 浩 (1986): アフリカの環境変動. 季刊創造の世界, No. 57, 6~43 7) KADOMURA, H., ed. (1986): Geomorphology and environmental changes in tropical Africa: Case studies in Cameroon and Kenya. Hokkaido Univ., 299 p. 8) KADOMURA, H. and HARUKI, M. (1988): Man-induced environmental changes in the humid areas of Cameroon. Travaux et Documents de Géographie tropicale, CEGET/CNRS, Bordeaux, n° 61, 177~194 9) 門村 浩・堀 信行 (1978): カメルーン国内陸部森林・サバンナ地帯の地形と表層物質の特性. 地学雑誌, 87 (6), 349~367 10) 科学技術庁資源調査所 (1978): 西アフリカ諸国における熱帯降雨林及びサバンナ地帯の植産資源開発利用に関する基礎資料 (主として熱帯降雨林地帯) カメルーン林業編. 資料 No. 59, 106 p. 11) 梶 幹雄 (1983): カメルーン南西部熱帯多雨林の組成および構造. 熱帯林業 (n.s.), No. 6, 2~13 12) LETOUZEY (1968): Étude phytogéographique du Cameroun. Paul Lechevalier, Paris, 511 p. 13) LETOUZEY (1985): Notice de la carte phytogéographique du Cameroun au 1:500000 (1985), 6 feuilles. IRA (Herbier National)-Yaoundé/ICIV-Toulouse, 5 t., 240 p. 14) 三谷雅純 (1989): カメルーン国南部森林地帯に生息する霊長類の現状と保護策の展望. 第26回アフリカ学会学術大会発表要旨, p. 2 15) 農林省熱帯農業研究センター (1978): 熱帯の有用樹種. 熱帯林業協会, 666 p. 16) VIVIEN, J. et FAURE, J.J. (1985): Arbres des forêts dense d'Afrique centrale. Agence de Coopération culturelles et technique, Paris, 565 p. 17) WESTPHAL, E. et al. (1981): L'agriculture autochtone au Cameroun. Misc. Papers, 20, Landbouhogeschool Wageningen, 175 p.

新刊紹介

◎東南アジアの森林と暮らし 渡辺弘之著 B6版 160 pp. 人文書院 1989年7月15日発行 定価1,500円

著者はたびたび本誌に寄稿されているので改めてご紹介の必要もないと思うが、京都大学農学部国際林業論研究室を拠点として、熱帯林の生態に関連した幅広い分野で活動を続けておられる。その著者が、これまで約20回に及ぶ東南アジアの森林調査の機会に得られた知見を中心に、森と暮らしのかかわりを興味深く紹介されている。本書は2部からなり、I 東南アジアの森林 (p. 9~46) では、東南アジアでみられる主要な森林型について分りやすく解説されている。II 森林と暮らし (p. 49~153) では、森林とタブー、東北タイの水田の樹林、ヤーン・ブルアンの葉、カリマンタンのシラップ・ウリン、西ジャワのプカランガン、ランパンのラック、ゴールデン・トライアングルの茶、低湿地のサゴヤシ、北スマトラのアンソクコウノキ、木菜、身近な材料一タケとトウ、植物に対する知識、薬用植物一毒と薬の13の話題の中で、森を守り、森で暮らしをたてている人々の生きざまや知恵を紹介しておられる。本書の特徴は、平易な文章で読みやすいことはもちろんであるが、実に見事な写真が数多くのせられていることである。それぞれの話題にマッチした多くの写真はとても鮮明で、カラーグラビアであったら立派な写真集になったのにと惜しまれさえる。熱帯林に関心をもたれる方々には是非一読をおすすめしたい書物である。 (浅川 澄彦)